

総長挨拶

九州大学総長 有川 節夫

九州大学の有川でございます。

はじめに、今般のわが国を襲った東日本大震災により、尊い命を亡くされた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、甚大な被害を受けられたすべての方々に対しまして心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い原子力発電所の事故の終息・沈静化と被災地の復興を祈念致します。九州大学は、震災支援対策室を設置し、大学病院からの医師団の派遣、義援金の募集や支援物資の送付、被災した学生、外国人留学生、研究者等への可能な限りの支援を迅速に行っています。今後とも九州大学として全力で支援活動を行ってまいります。

それでは、九州大学病院別府病院開院にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日はご多用中にもかかわらず、別府市医師会や大分県における整形外科医の方々、元生体防御医学研究所や九州大学温研同窓会の方々など多数の関係の皆様のご臨席を賜り誠にありがとうございます。また、本日の式典の開催にあたりまして、九州大学温研同窓会さまのお力添えをいただき、感謝申し上げます。

本院は昭和6年に九州大学温泉治療学研究所の診療部門として発足してから平成23年で80周年を迎えました。また、九州大学としましては、九州帝国大学の創設から100周年を迎えました。その記念すべき年に研究所から独立し、診療を軸とした九州大学病院別府病院として新たに出発したことになります。

昭和39年の温泉治療学研究所附属病院の設置以来、各診療科の設置、生体防御医学研究所附属病院への改組など、研究所が掲げる生体防御に関する学理およびその応用研究という目的に沿って、基礎から臨床への一貫した研究診療体制を整備し、また、病院の整備と医療技術の向上に努めてまいりました。

さらに、平成15年10月より、九州大学医学部附属病院、歯学部附属病院、生体防御医学研究所附属病院の統合に伴い、九州大学病院別府先進医療センターに衣替えするとともに、診療科も統合再編し、先進的な医療センターとして先端的研究と優れた環境と蓄えられた伝統と実績を踏まえ、幅広く患者の皆様に対応してきました。

平成18年6月には国立大学では珍しい療養病棟を開設し、その活動に力を入れてまいりました。平成21年2月には、最新鋭の放射線治療並びに診断機器を導入し放

射線科を開設したことにより、なお一層地域に根差した病院に近づいたところでございます。

今回の別府病院の開院に合わせ新たな診療科として整形外科が新設され、脊椎疾患を主体に診療を開始し、整形外科受診の患者さんには手術からリハビリテーションまで一貫した治療が受けられる体制を整備しました。

九州大学病院別府病院では従来にもまして患者さんに満足していただけるよう、質の高い医療を提供するために職員一同さらなる努力をし、皆様の健康の増進と生活の質の向上にむけて、より一層地域医療に貢献してゆく所存でございます。

最後になりましたが、この場をお借りして、これまで多大なご支援を賜りましたすべての関係者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、本日ご臨席いただきました皆様をはじめ、関係各位に今後とも暖かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。私の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。